



2022年11月2日

報道関係各位

大和物流株式会社
代表取締役社長 木下健治
大阪市西区阿波座一丁目5番16号

■首都圏向け共同配送サービスを強化
「岩槻物流センター」を稼働開始しました

大和ハウスグループの大和物流株式会社（本社：大阪市西区、社長：木下健治）は、2022年10月31日、埼玉県さいたま市岩槻区において物流施設「岩槻物流センター」を竣工し、11月1日に稼働を開始しましたので、お知らせします。



【岩槻物流センター】

1. 本センターにおける事業内容

当社は、2021年8月から、「岩槻物流センター」（以下「本センター」）を建設してまいりましたが、このたび建物が竣工し、稼働を開始しました。

本センターは、主に建築資材や電子部品、日用品や衣料品などを取り扱うセンターとして、在庫管理や流通加工、輸配送などの各種物流サービスを提供します。

今後、当社は近隣拠点と連携したエリア共同配送サービスを中心に、首都圏内陸部をカバーする消費地近郊型センターの立地優位性を生かした効率的な物流ソリューションを展開し、幅広い業種、業態の物流課題に対応していきます。

2. 本センターの特長

(1) 首都圏全域への輸配送に適した内陸部に立地

本センターは、首都圏のみならず北関東エリアへの輸配送に適した内陸部に立地します。東北自動車道「岩槻インターチェンジ」から約 6.8km に位置し、圏央道や東京外環自動車道などにより、東京都 23 区内や神奈川県横浜市、千葉県千葉市まで 1.5 時間以内でアクセスが可能です。

また、東北自動車道を利用することで、茨城県水戸市や栃木県宇都宮市、群馬県前橋市へも 2 時間以内でアクセスでき、北関東エリアを広範囲にカバーする物流拠点としても優れています。



【広域図】

(2) 消費者ニーズにあわせたオペレーションを実現する施設仕様

本センターは、カゴ台車などの荷役作業を効率的に行える高床式倉庫です。トラックバース側に設置した貨物用エレベーターを活用することで貨物を 1 階のセンター内に入れることなく直接上階へ搬送できるため、スピーディな荷捌きを要する集配送が可能です。

また、入庫から在庫管理、出庫までの一連のセンターオペレーションはもちろん、床面積約 4,900 m² (約 1,480 坪) の各フロアの広さを活かして、商材や業態に合わせた流通加工を実施できます。流通加工では商品の値札付けや袋入れ、個人宅向けの出荷手配など EC、BtoC にも対応した物流サービスも提供していきます。



【倉庫内観】



【トラックバース】

3. 関東エリアにおける共同配送サービスの強化

当社では現在、関東エリアにおいて 28 カ所・延床面積約 26.4 万㎡（約 8 万坪）※の物流センターを運営し、複数企業の小口貨物を積み合わせた輸送や、店舗や物流センター向けの共同納品などの共同配送サービスを行っています。

今後、本センターにおいても各拠点と連携することで効率的な共同配送サービスを展開していきます。

※賃貸用物流施設を除く。2022 年 9 月末時点

■ 関東エリアにおける主な共同配送ネットワーク拠点

名称	所在地	延床面積
つくばロジスティクスセンター	茨城県つくば市みどりの東	18,616.9 ㎡ (5,631.6 坪)
久喜物流センター	埼玉県久喜市菖蒲町	8,837.7 ㎡ (2,673.4 坪)
三郷物流センター	埼玉県三郷市インター南	26,046.0 ㎡ (7,878.9 坪)
戸田物流センター	埼玉県戸田市笹目南町	4,181.2 ㎡ (1,264.8 坪)
千葉ニュータウン物流センター	千葉県印西市泉野	24,098.2 ㎡ (7,289.7 坪)
浦安物流センターⅠ	千葉県浦安市千鳥	10,470.7 ㎡ (3,167.4 坪)
浦安物流センターⅡ	千葉県浦安市千鳥	7,302.5 ㎡ (2,209.0 坪)
浦安物流センターⅢ	千葉県浦安市千鳥	5,209.3 ㎡ (1,575.8 坪)
相模原物流センター	神奈川県相模原市中央区	10,302.5 ㎡ (3,116.5 坪)
海老名物流センター	神奈川県海老名市社家	11,817.5 ㎡ (3,574.8 坪)
海老名物流センターⅡ	神奈川県海老名市社家	14,776.9 ㎡ (4,470.0 坪)



